

ぶらりらいぶらりい

～図書室にはこんな本があります～

No. 60

★利用者からの質問をもとに昭和館図書室の資料を紹介します。
(書名の後の()の数字は請求記号です。)

問 歩兵第121連隊のことが書かれている図書はないか。

答 数字の表記は様々な場合が考えられるので、

図書 → **ことばから調べる** を選択し、

歩兵第121 + **空白** + **歩兵第百二十一** + **空白** + **歩兵第一二一**
を入力し

いずれかのことばを含むを選択します。(4件該当)

目次中にこれらのことばが含まれている場合、その部分が赤字になっています。

『渦まくシッタン』(396.5 / N71)

サブタイトル中の「鳥取・**歩兵第121**連隊史」がヒットしています。

『学徒兵われら』(396.21 / Ky9)

目次中の「**歩兵第一二一**聯隊行動概要(遺稿)」がヒットしています。

『山河ありて』(281 / Sh97)

目次中の「**歩兵第一二一**連隊年表」がヒットしています。

『鳥取綜合聯隊史』(396.21 / To74)

目次中の「**歩兵第百二十一**聯隊史」がヒットしています。

図書室には、書棚に並んでいる図書以外にもたくさんあります。

検索端末を使って、読みたい本を探してみてください。

操作方法等がわからない場合は、カウンター職員までお気軽に…。



筆者は、どこに旅行してもまず古本屋を探します。初めての町では、必ず交番で「この辺に古本屋さんがありますか？」と聞くのが決まりです。この夏は、酷暑から逃れて真冬のメルボルンに行きました。もちろん真っ先に古本屋です。メルボルンには、1軒だけ、神田の一誠堂のような立派な古本屋があり、その他に数軒の雑本を扱う店があります。この店は、広々とした地下店舗で、ゆっくりと本を見ることが出来ます。何冊かを引っ張り出して見ましたが、一冊だけ、「忘れられた子供の本」という本を買いました。古いヨーロッパの子供の本を紹介した本で、図版が多く、面白いものです。この本自体20世紀初頭の発行です。

次いでメルボルンから電車で2時間ほどかかる“恐るべき田舎”に、巨大な骨董センターがあることを聞き、行ってみました。駅の前の原野に！！巨大な体育館のような建物があり、20軒ほどの骨董店が入っているのです。こういった骨董店センターは外国には多く、ロンドンなどにも数カ所あって、何度かゆきました。このセンターの中に“ゴミ本”コーナーがあり、山のような本がありました。半日書棚の前を歩いていて、1850年代のロンドンの風刺雑誌「パンチ」の合本が目につきました。これは風刺漫画で有名な雑誌で、出版社自身が在庫の2年分を合本にしたもので、150年以上たっているにもかかわらず、しっかりした状態です。厚さは10センチ近くもあります、重さも半端ではありません。一瞬「これを担いで帰るのはつらいなあ」と思いましたが、もちろん見逃すことは出来ません。帰国の荷物が異常に重かったのは、この本のせいです。古本屋で本を眺めていると、自分が海水を飲み干そうとしているような気分になることがあります。短い人生で飲めるのは僅かにコップ一杯にすぎないのに。(午睡)

※ 上図・パンチに掲載された、ロシアに狙われているトルコを風刺した漫画。

—図書室から—

やっと落ち着いた気候になりました。今年の夏は、とても長かったように思います。皆さん、秋の夜長はどのようにすごしますか？

*コインロッカーのご利用は当日限りです。

図書室入口に設置してあるコインロッカーのご利用は「当日限り」になっています。お帰りには、取り忘れのないようご注意ください。

ぶらりらいぶらりい ～図書室にはこんな本があります～ No. 60

2004年9月22日 発行

編集・発行 昭和館 図書室

〒102-0074 東京都千代田区九段南1-6-1